



学校図書館でのデータベース活用法



伊吹 侑希子

<抄録>

学校図書館は、生徒がいつでも情報や知識を活用して知的好奇心や探究心を高めていくことを支援する場である。本稿では、新聞記事データベース「朝日けんさくくん」を用いることで、情報の信頼性・正確さについて見極める情報処理能力の育成とともに、教科書教材では補えない時事問題についてどれくらい関心を高めることができたのか授業実践と図書館の取り組みを紹介する。

<キーワード>

学校図書館, NIE, データベース, 探究型学習

1 はじめに

京都学園中学校高等学校は、生徒数約1,500名が在籍する中高一貫校である。「世界的な視野を持ち、主体的に考え行動する人材の育成」を教育目標に、以前NIE (Newspaper in Education) 指定校であったことから、新聞を授業の中で多用することによって、教科書教材だけでは補えない最新の時事問題を含めることで、表現力・語彙力・思考力が養われるよう教科担当者によって工夫されながら実践されている。

また、私自身国語科教員であり司書教諭である立場を活かして、理科・社会科・国語科・情報科・家庭科と多くの教科で、教科担当者と司書教諭が協働で授業をつくり、学校図書館において図書資料や新聞・データベースを活用した探究型学習を導入している。

本稿では、学校図書館を学習・情報センターとして活用することで、通常の授業よりもどのような教育効果があらわれたのか、授業の様子とともに紹介したい。

2 データベースの活用

本校図書館では、探究型学習を行う上で、より幅広く情報収集ができるよう、過去30年分の新聞記事検索が可能である「朝日けんさくくん」を2010年度より導入した。データベースを利用するメリットとして、紙媒体と比べ、体系化された過去の大量の情報を一度にキーワード検索できることや、新聞資料を複数広げる必要がないこと、インターネット検索による情報と比べて、情報の

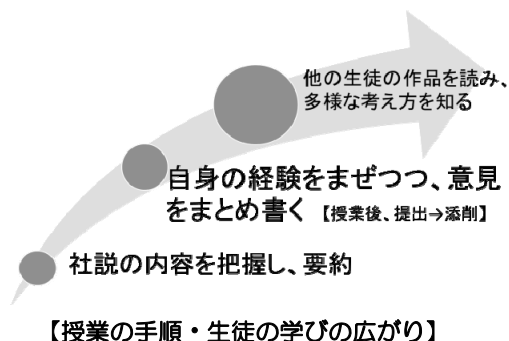
信頼性が高いことが挙げられる。また図書館内にパソコンブースを併設することで、本・データベース・Webとそれぞれの情報が同時に得られ、探究型学習の効率がよくなっている。

2-1 授業での利用法

2013年度に高校3年生の「国語演習」(受講生96名)を対象として、「社説を読んで社会を知る」と題し、新聞を活用した通年課題として社説を題材に小論文指導を行った。この授業は、現代文・古典とは別に、進路決定に向けて大学入試を意識し、問題演習を中心に、進路先で必要となる知識、文章能力を身に付けることを目標にしている。この通年課題を通して

- ①各自の進路実現に向けて、小論文が書けるように表現力を磨く。
 - ②多面的なものの見方を身に付けさせる。
 - ③時事に関心を持ち、日頃から新聞を読む習慣をつける。
- の3点を目標として掲げた。

取り扱うテーマは、生徒にとって日常に密接した話題を取り上げ、関心を持ってほしい事項として原発問題や経済・スポーツ・教育と多岐にわたるようにした。毎回朝日新聞社より発行されている「社説ノート」を集め、添削し、特によく書けていたものについては“優秀作品”として名前を隠した状態で印刷し配布した。他の生徒の文章を読むことで、多様な価値観をクラス全体で共有することができ、文章力とともに、社会問題の捉え方について深化することができた。



しかし、新聞記事の内容だけで社会問題を把握するに

は、生徒の知識が不十分すぎると感じていた。そこで、小論文の書き方を学んできたことを踏まえ、図書資料や新聞を用いて社会の現状を知り、これからどのような対策ができるか、各自で考え小論文を書かせることにした。テーマは、少子化・ネット依存等タイムリーな話題を取り上げ、白書等統計資料や辞典、関連図書、新聞記事を図書館内で探させ、ワークシートの質問事項にあわせて、調べさせた。



<写真1：図書資料や新聞から課題の答えを探し、ワークシートに記入していく>

また、最新の時事問題に関する事項の調べ方を身に付けさせるために、参考図書が少なかった「アベノミクス」をテーマに「朝日けんさくくん」を用いてキーワード検索をさせた。新聞の用語解説記事を見つけた生徒は、時事用語はなかなか書籍で解説されていないので、便利だと実感していた。ネットは手軽に調べられるものの情報の正確さについて判断することが難しいことを体得し、データベースの活用方法について理解していた。

図書館での授業では、図書の探し方・データベースの利用方法について説明した上で、参考文献の書き方・本の奥付の見方も解説した。ネット情報はサイトの名称、アドレス、最後に見た日付も記入するように指導した。



<写真2：新聞データベース「朝日けんさくくん」を使って新聞記事検索をする>

この授業をきっかけに、放課後に生徒が自主的にデータベースを利用するため図書館を訪れるようになった。小論文入試を目前に控え、面接対策も含んだ上で、関連する記事を検索し、試験に備えていた。

2-2 学校図書館の企画展示での利用法

2014年4月から朝日新聞の朝刊にて、夏目漱石『こころ』の連載が始まった。これにあわせて図書館内でも、連載記事を掲示するとともに、関連図書・関連新聞記事を通年企画として特集している。図書館内では、朝日新聞・読売新聞・京都新聞の三紙を購読しているものの、地方版のページに掲載されている記事を読むことはできない。そこで、「朝日けんさくくん」でキーワード検索をかけ、地方版に掲載された漱石に関連する記事を印刷し、コーナーのボードに張り出すことで、より多くの情報が生徒に目に留まるように工夫している。



<写真3：図書館内の通年企画 夏目漱石フェア>

3 おわりに

データベースの利用法について、新入生の図書館オリエンテーション時や教員研修時にガイダンスを実施しているが、授業で実際に活用していくことで、その利便性が体得でき、積極的な利用につながると感じる。授業内容等把握し、生徒のニーズをつかみながら、図書資料をはじめ、新聞、データベース等多くの資料を提供することで、生徒の知的好奇心を喚起し、情報処理能力も養われていくのではないだろうか。